

大岩3区 区民だより

発行 渡井 瀧男 秋山、鈴木
編集 松田、渡井、湯元
森茂、湯元
「富士宮 地域づくり」で検索
http://www.geocities.jp/macwin_99/



区長より

区長としての抱負
渡井 瀧男

区長の大役を拝命して早くも四ヶ月目を迎えます。四月から今日に至るまでのこの三ヶ月間、区の総会を始めとして各種様々な行事が行われてきました。区長とはこんな忙しきものなのかと思ふ毎日でしたが、真正面に富士山を仰ぎ見るこの地、「住んで良かった大岩3区」を目標に、歴代区長様の区行政を継承しつつ区民の皆様から喜ばれ明るい魅力のある大岩3区を目指し頑張る所存であります。是非とも、皆様のお力、お知恵をお貸し下さるようお願い申し上げます。

行事でもあります。体育祭も行われ、体育部の強力な力、また区民の皆様のご協力のもとに無事終了することが出来ました。これをまずは厚く感謝申し上げます。

新事業
今回、区長として早期実現に向けた事業として、先代の皆様が大事に築いてきた農業用貯水池（通称大岩堤）付近の環境整備を一日も早く実施したいと思っております。すでに「ピオトップ大岩」の皆様がいろいろ興味あるアイデアを出し合っており、一歩前進しつつあります。自然を活かした一つの公園化を進めて行きたいと思っております。夜はホテルの乱舞が見られ、昼は野鳥の鳴き声を聞くことができる自然歩道等、区民の皆様の憩いの場所となればよいと念願しておりますのでどうか協力をお願い致します。

広報部発足
本年度より区の組織として「広報部」を正式に位置づけました。この団体は以前、大岩3区まちづくり委員の中に編集委員として籍を置いておりましたが、この方々で、「区民だより」等により

皆様へ区の近況をお知らせするとともに、現在の情報社会の最先端をいく、インターネットを利用し、大岩3区の素晴らしい面を全国にアピールしてゆきたいとのことです。是非楽しみにして下さい。

納涼祭をよろしく
終わりになりますが、区最大の行事であります納涼夏祭りを本年は八月七日に予定しております。少し工夫もこらし、想い出に残る楽しい夏祭りになりたいと計画しております。皆様のご協力、ご参加をお待ちしております。



区長にインタビュー
昭和九年生まれ。生粋の大岩っ子。多趣味。写真撮影、弓道4段、詩吟師範、ドライブ（最近では、石川県や佐渡など）、山登り（富士山などは文字通り朝飯前）、庭仕事、大工仕事など。

少年時代の楽しみは、と聞かれ、「七月に六地藏のあたりでお祭があり、夏物の旬の果物が食べられた。それが楽しみだった」

これまで大岩に暮らしてきて、最大の事件は？「戦時中、今の市役所あたりにB29が落ちてみんなで見に行つた」

頑健であり、誠実。信念の人だが柔軟さもあり、人の話をよく聴く。大岩3区にきつと確かな歩みを刻んでくれることでしょう。

各町内会長

区長を支え、市や区からのお知らせを各班長に届けるほか、町内の諸問題にかかわり、皆様と協力して諸行事を実行してゆく推進力となる各町内のリーダーです。町で見かけたらお声をかけてください。



町内会長挨拶
(代表 一町内会長
佐野達也氏)

町内会長として、皆様のご提案、ご意見を拝聴し、明るい町内を目指して、精一杯頑張つてゆく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



1町内 佐野達也
干支：亥（いのしし）
趣味：骨董鑑賞



2町内 川村 孝三
干支：戌（いぬ）
出身：茨城県

大岩3区	各町内戸数
1町内	225戸
2町内	13戸
3町内	309戸
4町内	312戸
合計	859戸です。 市内でも最大に近い戸数になっています



4町内 奥野 康博
干支：丑（うし）
出身：伊勢 趣味：釣り



3町内 望月 久夫
干支：亥（いのしし）
趣味：ゴルフ

新区民名簿作り ご協力をお願い

区民名簿は数年一度、大岩一、二、三区と合わせて、業者により作成されています。毎年、大岩へは十数軒の転住がありその方々は、新しい名簿ができるまで区民名簿がもらえません。広報部では、大岩3区独自に、次の要領で区民名簿を作ろうと計画しております。どうぞご協力ください。

- 毎年4月に発行（今年に限り9月に発行）
無料
- 二世帯住宅などの場合、世帯分の世帯主を掲載する
- 自分の職業以外で、ボランティアで公の仕事を持っている場合は役職を掲載する
- 右の例は、班、町内、区、市、県などの諸役員、小中学校の諸役員、スポーツ少年団、ボーイスカウトなど青少年健全育成関係役員など
- 世帯主以外の人がある役員の場合、備考欄にその役員名を書く
- 右以外の情報については、従来の区民名簿と同じく、氏名、住所、電話番号を掲載する
- 個人情報を含むので、表紙に名簿の管理についての注意書きを掲載

人こそ我々の一番の財産です。この名簿により、区内の人々の交流が盛んになることを願っています。諸役職については、謙遜して書かない、ということのないようお願いいたします。書いてあることが、区内の交流を盛んにし、区を活性化するきっかけになるのではないのでしょうか。今月中に町内会長、班長を通して区民名簿記入用紙を配布します。のでご協力ください。パソコン入力も協力も募集いたします。



体育祭を支えた

大岩3区のパワー

大岩3区体育部長

遠藤 彰

「今年はみんなが楽しく参加できる体育祭にしよう」と、3月の末から体育部でいろいろ企画を考えてきました。今年度新しく取り入れた競技は、全員が参加できる種目（玉入れ・×クイズ）と希望者が全員参加できる種目（パン食い競争）、お年寄りにも楽しめる種目（空き缶積み）、一昨年までやってきた町内対抗リレーです。それ以外にも、お楽しみ抽選券、中学生ボランティア、選手用ゼッケンなどいいと思ったことには、思い切って挑戦してみました。



役員の皆さんの協力は、新しいことに挑戦するのは、やりがいがある反面、混乱や不安もつきまといまいます。でも、準備を進めていくうちにブロック長を中心にした各ブロックが積極的に動いてくれるようになりました。毎回、時間いっぱいまで真剣に話し合い、会合以外にも集まって相談をしてくれるところもありました。こうした協力体制のお陰で、本番には

予定していたことが全部できました。

光った中学生ボランティア この中でも中学生ボランティアは大会直前まで実現できるか見当が付きませんでした。

（中学生ボランティアは、今回は、実現しないかもしれない。）

そんな空気が体育部の役員の中に立ちこめていました。ところが、当日、緑のジャージが会場にちらほら現れ始め、開始時には、17名もの参加者がありました。役員一同驚きました。役員一同驚いたのは、中学生の動きの軽やかさでした。

「すいません。次は、どんなことをやればいいですか。」こんなうれしい質問を、何度か耳にしました。用具の準備・後かたづけ、選手の招集・放送への伝令、結審の旗持ち、リレーの実況中継、南中の緑のジャージが生きて活躍する姿は、活気がありました。かけ足で移動する中学生の姿はさわやかささえ感じさせてくれました。今回初めて取り入れた大岩ウルトラクイズも簡単な打合せしかできなかったのですが、短時間で楽しい問題を考え、役割を分担し、本番に臨みました。正解が発表されるたびに歓声とため息が入り交じるなど、会場も大いに盛り上がりました。最後は、強い雨脚の中、片づけまで手伝ってくれた中学生ボランティア一同拍手を贈りました。今日の動きを見て



を学生を見て

「大岩三区 人物ふぁいる」

富士見小のオオムラサキの飼育活動を支援する
佐野利正さん (79) (一町内五班)

6月25日、富士見小学校で、オオムラサキの放蝶集会が開かれた。そして翌26日運動場に隣接する公園から、学校関係者や地域の人々の見守る中、約200羽のオオムラサキが大空に放たれた。

空高く舞い上がる蝶を見ていると、変態を繰り返しながら、最後は軽やかで美しい姿へと進化をとげた蝶のいのちの不思議さを思わざるを得ない。

富士見小でオオムラサキの飼育が始まったのは、学校創立もない、今から23年前のこと(昭和56年)。当時、PTA会長だった時田桂治さん(前区長)からオオムラサキの話聞いた利正さんは、準備段階での会議の様子や、オオムラサキが卵から羽化するまでの経過をビデオカメラに収めた。

それが、昭和57年、「オオムラサキ富士に舞う」という約20分のドキュメンタリー番組に結実。テレビ朝日系列で全国放送された。「一番、嬉しかったのは、秋田の警察署長の奥さんが『テレビを見て感動しました』と、くす玉を贈って下さったことです。そのお礼に、富士見小とオオムラサキの入った絵葉書を作って送りました」

その後も、オオムラサキの生態を撮りつづけている利正さんは、毎年6月、富士見小の生徒たちに、オオムラサキの生態について課外授業をしている。

その授業の中で、ご自身の様々な人生体験も語って聞かせるという。

次のエピソードは、そのうちの一つ。

利正さんは、農学校3年生の時(昭和18年)、援農部隊として、北海道・紋別近くの滝上村へ派遣された。そして小野礼之助さん(70町歩を所有する大地主で、戦後、北海道の電化促進委員長も務めた名士)の農場で3ヵ月間、働いたが、小野さん一家にとっても気に入られた。今日に至るまで親戚同様の付き合いをしている。

「昨年は、お孫さんの結婚式に招かれ、家内と出掛けました。いまだにお付き合いができるのは幸福です。」

僕はあの3ヵ月の間、おやじの言い付けを守り、小野家の人間になり切りました。決して『小野さん』とは呼ばず、お父さん、お母さん、兄貴(1歳年上のご長男)と呼びました。そして、礼之助さんと同じに明け方に起き、夜はどんなに遅くなくても仕事が片づくまで働いたのです。そしたら、馬市や缶詰工場の見学に連れていってくれたり、別れ際には、高額の餞別をくれたりしました。同じ援農部隊で行った他の学生にはなかったことです。

真心をもって付き合いえば、必ず真心が返ってくるんですね。でもそこに、損得勘定や打算があってはダメですがね」



て大岩3区が以前から取り組んできたボランティア活動が確実に根を張ってきたことを実感しました。この中学生たちは「大岩3区の宝」だと思います。

「パワーを活かそう！」

今年度の体育祭を通じて、大岩3区には、860世帯の様々な潜在的パワーがあることを痛感しました。このパワーを眠らせることなく生かしてほしいと思います。

この大会の実施にあたり、区長様を始め多くの方々にささえて頂いたことに感謝します。本当にありがとうございました。

この土地の歴史を探ろう

3町内 鈴木 利広

子どもの頃から比べると道路も舗装され民家も増えて小学校がで、自然の風景が近代的な都会風景に様変わりし、大岩三区が日に日に進化しています。我が家は私で四代目になります。代々自然の中で農作物を作り続けています。

私も、若い頃は社会・歴史には興味が全然ありませんでした。しかし私も子どもが生まれ、この先を見据えた時に、単に目の前の農業だけをやっていけばいいのだから、もっとこの土地に根ざした、もっとみんなに五感を通して喜ばれる農業(私の場合)

お茶作り)ができないだろうか、と考えたとき、この土地の歴史を再度掘り起こし、確認し、次の代につなげていきたいと思うようになりました。作物という命を相手にしている農業者の行き着くところかもしれません。幸いこの地には子どもを中心に地域の活性化しようとする大岩キッズという団体もあります。この活動の中に「土地の歴史を探る」活動も加えていただき、例えば子どもが地域の長老の方々にインタビューしたり、学習会をしたりなど楽しく活動できたらと思っています。自分の住んでいる土地の歴史を振り返り、将来を見通せばきつと地に足のついた考え方もできる

ことでしょうか。後日詳しくご案内いたしますので、お子様をそのような活動に参加させてください。また、大人のみなさんも是非そのサポーターになっていただきたいと思います。

(投稿)

編集後記

新メンバーで区の広報部を設置しました。キャッチフレーズ「住んで良かった大岩3区」を目指し頑張りたいと思います。ご意見、ご協力をお待ちしております。(広報部一同)

